

～早期入試と心構え～

今年の学校推薦・総合選抜入試合格概況【12月11日現在】

★国公立大 **11名**(東北2・県医看2・会津1・秋田1・山形1・茨城1・宇都宮1・埼玉1・長岡造1)／

出願29(+ 共テ利用最大予定31=60)

★私立大(指定校が主) **31名**(慶應1・早大3・立教3・東理大1・青学1・学習院1・中央1・東農大1・同大2など)／**出願41**

昨年の学校推薦・総合選抜入試合格概況【最終結果】

★国公立大 **14名**(東北2・福島1・県医医2・県医看1・県医保2・会津1・お茶の水1・富山1・新潟2・新潟県立1)／**出願25**

★私立大(指定校が主) **34名**(慶應1・早大4・立教1・東理大1・青学2・学習院1・中央2など)／**出願38**

一昨年の学校推薦・総合選抜入試合格実績【最終結果】

★国公立大 **21名**(東北2・新潟2・山形1・福島4・県医保3・会津1・宮城教3・筑波1・信州1・富山1・上越教1・長岡造1)／**出願39**

★私立大(指定校が主) **29名**(慶應1・早大4・同大2・立教2・青学2・学習院2・日大2など)／**出願32**

- 3年生は共通テストまで一か月。もう、エンジン全開ラストスパートかけっぱなし状態、のはず。そんな中、すでに合格を勝ち取り、卒業までの期間を余裕で(?)過ごしている人たちもいる。そう、**総合選抜型・学校推薦型入試合格者**だ。(入学までに課題に取り組みなければならないのが普通だけどね)
- そういった早期入試もほぼ終了。共通テスト利用方式など、年が明けてからの遅い日程もあるが、ほとんどの大学は10月から12月中旬にかけて出願、試験、発表という流れ。専門学校などはさらに早い。
- ◎令和の時代に入り、この方式での受験が急増。令和6年度募集定員は**国公立大で23%**に達し、今後、さらにこの傾向は加速するだろう。実際、**この入試方式の定員が50%を超える私大・短大も多く、国立大学は定員の30%をこの方式にすることを目標としている。**

~~~~ 早期入試対策⇒面接・小論文の「当事者意識」~~~~

なぜ面接？ なぜ小論文(総合問題)？

というわけで、特に1・2年生。早期入試について理解を深めておこう。例えば、高校入試のように「I期(推薦・特色)がダメならII期(一般・私立)で」といった「受験機会が増えるだけ」の意識だとしたら大変な勘違い。

推薦入試等の早期入試の多くは、高校時代の学習成績や活動実績にプラスして、**面接や小論文(総合問題)が選考方法として実施される**。今や文系・理系を問わず、**一般入試にも数多く取り入れられている**。ここで問われるのは「**普段の姿勢**」だ。学業成績が目立たなくても、その姿勢いかんで合格をつかむ可能性がある。

では、「**普段の姿勢**」とは何か…幼い子供ではないのだから、「**普段の姿勢**」=「先生の言うことを聴いていい子にしていること」ではない。立場を変えてみるといい。もし、みんなが面接官や小論文の採点者だったら、何を基準に合格者を決めるだろう？大学の先生でなくてもいい。職場の人事担当で、誰を採用するか決める立場だったらどうだろう？

優先されるのは、その職業・仕事・資格・大学・学問等に対する適性や可能性だ。生まれながらの才能や環境もあるが、それ以上に「**普段の姿勢**」が**適性や可能性を高める**。そして、これらすべてを学力検査だけで判断するのは難しい。そこで、小論文や面接といった直接法が採用されるのだ。

～「**顕著な実績を残して点数化し、入試に受かりやすくする**」とか、そういうことではな—い！～

忘れるな！「当事者」であろうとする姿勢が進路目標を引き寄せる

そういった試験を通じて自分の適性や可能性を認めてもらうには、高校生である今から「当事者」の立場で考えることが重要。これこそ「**普通の姿勢**」だ。面接や小論文の指導をしていると、3年生であってもその認識が足りない人に出会うことが多々ある。つまり、自分の目指す職業や資格、学問分野に対する研究や問題意識が十分でないケースだ。

〇〇を**目指している**としよう。「〇〇とは何をやる仕事ですか。」「〇〇になるために何が必要だと思いますか。」「そのためにどんな努力をしていますか。」「今の〇〇の問題点は何ですか。」「あなただったらどういう方法で改善しますか。」「今話題になっている〇〇についてどう思いますか。」「大学では何を習得しますか。研究しますか。」

みんなはどう答えるだろう。どう書くだろう。実は、これらの問いに絶対的に正しい答えなどない。**大切なのは、〇〇についてどれだけ勉強しているか、どれだけ〇〇当事者として考える姿勢を持っているか**である。もちろん、高度な知識や思考力が必要とされる職業もあるし、科学技術の分野であれば、正確な答えが即座に必要なこともある。そういう場合は、それらも含めて適性や可能性と考えられる。

さあ、会高生のみならず。各教科の学習や部活動、総探の課題探究、さらには読書や新聞購読など日常のありふれた活動の中で、「**当事者**」の立場で意見を構築する習慣を身につけよう！それが進路目標をグッと引き寄せることになるのだから。

「当事者意識」は社会を救う = 進路の究極目標

蛇足だが、**何事についてもただの「第三者≒評論家≒傍観者」であって欲しくない**。民主社会の一員として大切なのは、**当事者の立場で思いやる姿勢**だ。SNSを悪用して**言いたいことだけを言う無責任な人間になってはならない**。**受験はそういう生きる力や術、すなわち社会性を身につける大切な場でもある**。人間として一回りも二回りも成長する絶好の機会なのである。そして、それは、やがて大きな社会貢献につながるのだ！

冬休みを前に、3年生に告ぐ！！

水面下の戦い・・・地力をつけた**カメ**は強い

《《《 固いチームワークも大切な要素！ 》》》

大学入学共通テストは年明け1月13日(土)14日(日)。

模擬試験の成績も続々と返却され、これから迎える一般入試等の本番に向けて、気持ちも新たにしていることでしょう。そこで昨年同様、目標達成のために、この時期大切な心構えを掲げておきます。

——今、本番を迎えて、参考になる数字や判定はもう出てきません。もちろん共通テスト自己採点の後、国公立大出願のために最後の **Compass** (ベネッセによる合格可能性判定システム) を見ることはできます。しかし、11月のマーク模試の結果以降、本番までの間は、現実的に数字の出ない**水面下の戦い**となっているのです。都市部では予備校などで多くのライバルと顔を合わせますが…

田舎にいと、相手の顔を意識するのが難しい。こんな時、11月段階までの**合格可能性に落ち込んでいる暇などない！**これから2月・3月までの間に**大逆転**があり得るのです。しっかりとした**戦略 Strategy** と**戦術 Tactics** のもとに、ウサギのように逆転される側ではなく、カメのように**逆転して勝利する側にまわりなさい**。もし、今自分がウサギの立場にいるのなら、油断して居眠りすることなく、さらに加速して**悠々逃げ切りなさい！**

これまで、数々のウサギやカメを目の当たりにしてきました。圧倒的な力をつけたウサギを除いて、やはり**謙虚な姿勢を持ったカメは最終的に強いモノ**です。

それともう一つ。**早々と進路が決まってホッとしているみんな！**みんなの力が、ここで大きな力を発揮します。最後までがんばる級友のために何ができるか、自分の進路準備と並行して**チームワーク**と**真の友情**を育もう！

なかなか成績が伸びなくて不安に悩まされている人もいることでしょう。しかし、みなさんはもう戦いの場に足を踏み入れているのです。土俵に上がる前におびえては、**勝負になりません**。

今こそ、自分を信じて、ベストの戦いができる準備をしましょう。そして受験は個人の力を結集する**団体戦**。会高生が一丸となってねばり強さを発揮するときです。ファイトだ、会高生！

